

「価値創造都市・京都の実現」を目指して
～京都経済センターを起点に「クロス」の知恵を活かす～

皆様、明けましておめでとうございます。

今年の干支は己亥（つちのとい）です。植物が成長して、種子に生命を引き継いだ状態を意味し、個人や組織に置き換えれば、次の成長に向けて、足元を固める年と言えます。平成の次に来る新たな時代を、明るく、希望を持って迎えたいと思います。

さて、いよいよ3月16日に、京都経済百年の計として次の成長の基盤となる「京都経済センター」がグランドオープンを迎え、京都経済4団体は同センターに結集することとなります。平成21年のこの年賀交歓会におきまして、京都経済4団体の再編も今後の課題にしながら、経済4団体がこれまで以上に連携を図り、活力ある京都経済を目指して努力していくと申し上げましたが、その後、京都経済センター構想を推進し、10年の年月を経て、ようやく結実させることができました。この間、力強く支援いただいております京都府、京都市をはじめ、関係者の皆様方には、心より感謝申し上げます。

私は、持論として「高い文化と学術を有する創造的都市は、その時代の産業に革新を興す」と申し上げておりますが、まさしく京都はそのような都市であります。京都経済センターに結集する各団体が、知恵を融合して、生活文化を中心とした内需を掘り起し、外需を取り込む知恵産業を創造することで革新を興すとともに、未来に向けた産業人材の育成をはじめ、将来を担う若者に夢を与え、夢をかたちにできるオール京都の拠点としていきたいと考えております。

加えて、遅くとも2021年度中といわれる新・文化庁の本格移転を成功させ、文化を活用した新たなモノづくりや観光産業の創造にも取り組んでいかなければなりません。世界の人々が憧れる文化都市・京都の魅力を一層高め、国内外の交流を拡大させ、世界交流首都の実現にも貢献したいと思っております。

そのためには、日本海側の交流インフラとして整備が進む北陸新幹線を、金沢・敦賀間の完成後、切れ目なく京都・新大阪まで着工することが重要となります。敦賀・新大阪間は、遅くとも2030年頃に前倒しして開業すべきであり、国に対して財源確保と早期開業を求めていると考えております。

結びに、京都においては、多様な人材や業種の融合が、知恵や付加価値の源泉となってきました。大変革時代のスタートを迎え、京都から未来に向けた新たな価値を創造し続けていくためには、「クロス」の発想が求められます。京都経済センターを起点として、日本人と外国人、経営者と学生、文化と産業など、枠を超えた掛け合わせによる「クロス バリュー クリエーション」によって、平成の先にある未来をデザインし、世界に類のない新しい「価値創造都市・京都」のまちづくりに貢献してまいりたいと考えております。

本年が新しい時代への足固めの出来る素晴らしい1年になりますこと、並びに、本日もご出席の皆様方のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ、私の新年の挨拶とさせていただきます。

平成31年1月5日

京都商工会議所
会頭 立石義雄